

## 第1回 松川町地域産業推進協議会 会議録

日時：平成23年10月7日（金）

午前9時05分～10時50分

会場：松川町役場 2階 協議会室

### 1. 開 会

### 2. 町長挨拶

農業や商業単体だけでは生き残れなくなってしまってきた。農業、商業、工業＝『産業』をいかに活発化させるかが課題。

また、財政の観点からも産業の発展は人口の増加や若者の定着につながっていく＝まちづくりとなる。

農商工を超えた取り組みも出てきており、良い芽が出始めている。

町としても、今回農商工連携も含めた地域産業の活性化について検討していただきたく、この協議会を立ち上げた。ぜひともご尽力を賜りたい。

### 3. 自己紹介

### 4. 任命書の交付

### 5. 設置要綱及び進め方について（事務局）

設置要綱は全文読み上げる。

この協議会に企画委員会20名以内を設け、農業、商業、工業の部会ごとにワークショップ形式で検討を進めていきたい。

#### 【委員より意見】

ワークショップは部会毎ではなく、バラバラに人選したグループ分けにした方が意見が出やすいのでは。

企画委員の人選は、地域的なバランスも考慮した方がよいのでは。

### 6. 会長及び副会長の選任について（事務局）

#### [委員より推薦]

会長に荻原正義商工会長、副会長に林好宏信州松川くだもの観光協会長を。

委員全員の賛成をいただき、会長、副会長よりそれぞれ就任の挨拶をいただく。

#### [荻原会長]

商工会においても、昨年より連携について会議を行なっている。今は作ったものに付加価値を付けて売り出す方法が必要ではないか。

町の産業発展のために尽力していきたい。

〔林副会長〕

荻原会長とは同級生。話しをする度に(農商工連携については)話題になっていた。町が少しでも良くなっていければと考える。一生懸命やらせていただく。

## 7. 協議事項 [これより荻原会長が進行]

### (1) 農商工連携について思うこと (各委員より)

・松川町は果樹中心の町。商工とのつながりは少なかった。商工会でも農商工連携については昨年より力を入れてきた。農業、商業、工業一緒になってできることを考えていきたい。商工会では手始めとして、農家の方を講師に講習会等に取り組んでいる。

・商工会の中においても商、工独立している。農業についても、りんご、なし、野菜等各部会で独立している。どこかで繋がれば農産物を加工し販売する形が取れる。連携する方法は三セクやNPOなどか。

・①JAみなみ信州が合併して13年目となる。本年度より、11支所に分け支所完結型で事業を進めてきている。地域の相互扶助として、外部産業(コンビニ、ファミドラ等)に対抗していく。

②イベント(なし祭り、ふじ祭り)を通じて連携してきている。選果場を中心にイベントを行ってきたが、北部選果場を統合したため今後は他(清流苑等)へ会場を移し行なっていく必要があると思う。

③TPPや原発については、食の安全を確保する為に、農商工が連携し取り組んでほしい問題であると考えている。

・農業自体の環境が変化してきており、70~80歳台の農家が廃業してきている。だんだんと減っていく優良農地をいかに守っていくかが課題である。現在の農家が減り続け、将来農家への負担が増えていくのではないかと懸念している。

・以前二十世紀なしを栽培していた(それだけで家族が食べて行けた)が、最後には旦那の給料を充てなければならぬほど赤字経営となってしまった。農家の家計を支えるには、面積の拡大か廃業の選択が必要となる。六次産業化に向け町のビジョンを策定してもらい、部分的に少しでも進めていく。観光面も大切。町民が楽しめれば、口コミで外から人(客)が集まってくる。そんな方法を検討していく機会になればと考える。

・町長の公約のひとつ。人との繋がりが構築されていくと思う。利益の追求にならず、人との繋がりを重視して地域全体を盛り上げていく組織が必要。若い世代が夢を語り、アイデア(固定概念を打ち破る)を出していけるような会議にしてほしい。農家として、出口(販売先)が見えてくるような方法を協議会で検討していきたい。「交流センターみらい」の活用も検討して欲しい。

・10 数年後にはリニアがやってくる。ものすごく変わると思う。しかしながら、地域の特色は守っていけるよう考えていかなければならない。

(深津町長)

・産業全体で考えていく必要があると思っている。しかしながらそれを強力に引っ張っていく人がいない。

マーくんカードは、大型店との差別化をする目的で作った。地域通貨として地域に還元してきている。

町のランドデザインなども視野に入れていきたい。

(2) 企画委員会委員の選任について [町長退席]

・公募委員について

公募をかけた方が、本協議会の取り組みを周知できるのでは。

また、後からやらなかったと言われるよりもよいのでは。この会議は長期戦となる。

→要綱に1/10以上とあるので、3名としたい。10月の広報などで募集し、11月中旬に締め切り、11月末の第2回目の協議会において決定していきたい。

・企画委員について

各部会の委員選考を、関係団体でお願いをする(6~7名程度)。商、工業は商工会で、農林業は、くだもの観光、JA、農委、産建正副において選考する。

農業部門は6名では無理がある。もう少し増やした方が。(商工と調整。8名位なら)

果樹農家が多くなると思うが、野菜や水稻などバランスよく選考した方がよい。

・協議会の委員が企画委員として参加することは

意見を反映させるには参加したほうが良いと思う。

→(協議会で協議した結果)合同会議を設け、お互いの情報共有を図ったほうが良い。

【町長・・・合同会議を年数回行っていきたい。】

企画委員会は、自主的に進めていける会議にした方が。

合同会議で出た案を協議会で検討していく。

8. 今後の日程について (事務局)

企画委員の選考を今月中にさせていただき、公募委員の決定と合わせて11月末に第2回目の協議会を開催したい。企画委員が決定できれば、第1回目の企画委員会を12月上旬に開催したい。

[委員より提案]

12月3日に「ふじ祭り」を予定している。去年は警察や公団に多大な迷惑をかけており、同じ場所での開催は難しい。清流苑で『まつかわふじ祭り』として計画をしており、折角の機会、本協議会でも共催、後援としてバックアップしてもらえないか。北部統合選果場となっており、各支所単位でも申し入れはあったが、断ってきた経過がある。選果場自体での開催は難しいた

め、まつかわリンゴ部会で計画をしている。

[荻原会長]

先日のロードレースはもの凄い人が集まってきている。折角来ていただいている参加者や観客に、各団体も協力し盛り上げれば滞在時間も長くなっていくのではないか。ロードレース、ふじ祭り、ペッカン楽市を(協議会の)事業として入れていけば、それもよいのではないか。

9. 閉 会

以 上